

## ミュージカルとの出会い

飄

々

広報委員

岡山 智亮

昨年から県の広報委員を任命されているが、今回、本欄執筆の担当が初めて回ってきた。何を書こうかかなり悩んだが、まずは自分の好きなもののなかから今のタイミングで書いておきたいことについて書かせていただこうと思う。

関西で研修医をしていた 10 年ほど前、大阪で劇団四季の「ウィキッド」というミュージカルを鑑賞した。それまでの人生で映画や音楽のライブなどには足を運ぶことがあったが、ミュージカルを鑑賞したのはこの時が初めてだった。「ウィキッド」とはオズの魔法使いに出てくる良い魔女「グリンドラ」と悪い魔女「エルファバ」がそうになっていくに至った話、いわばオズの魔法使いの前日譚的な物語である。元々は魔法学校のクラスメイトであった 2 人の女の子が、あることをきっかけに全く違う道を歩むことになり、対立を強いられることとなる。舞台上ではさまざまな登場人物が歌や踊りで観客を魅了し、衣装を含めた舞台上の道具は細かく作られており、一瞬にして「ウィキッド」の世界に引き込まれてしまった。見ごたえのあるシーンとしては、後に悪い魔女となってしまうエルファバが元々は控えめな性格であったが、自分の信じた道を進むために感情を開放するシーンである。エルファバを演じる女優が声高らかに歌うのであるが、その感情が移り変わっていく姿は圧巻であった。こうして一気にミュージカルの虜となってしまう、以降、数々の舞台を観に行った。

2 年前のことである。北海道旅行の予定があり、その時たまたま札幌で「ウィキッド」が公演さ

れることを知った。「ウィキッド」は劇団四季の数ある演目のなかでも公演機会が少ないため、これはチャンスと思い、すぐさま先行予約でチケットを手に入れた。北海道旅行はもちろん楽しみではあったのだが、8 年ぶりに「ウィキッド」を観ることのできる楽しみのほうがもしかしたら大きかったかもしれない。そして公演当日、劇場で自分の席を確認すると最前列のほぼ真ん中という席だったのだ。公演が始まるまでは、少し前過ぎてかえって全体が見えにくいのではないかと心配であったが、実際に始まってみると役者の表情や息づかいを眼前に感じ、想像をはるかに超える感動を経験した。そして、さらに驚いたのはエルファバを演じる女優に対してだった。前に観たキャストとは異なるものだったのだが、セリフは同じであっても雰囲気は全く違うのである。役者というものの奥深さを感じると同時に、札幌公演で観たエルファバは今でも忘れることのできないものになった。

そんな劇団四季創設者の一人である浅利慶太さんが昨年の夏にお亡くなりになった。劇団設立以降から時代の変化は著しく、特に世の中の娯楽としてテレビの役割が大きくなった時には劇場に足を運ぶ人がかなり減ったようで苦境の中、さまざまなアイデアで日本の演劇界の発展をけん引されてきたという。現場人としての劇団員への指導はもちろんのこと、より多くの人にミュージカルを観てもらうために興行のロングラン敢行、そのための専用劇場、チケット販売・管理のコンピューター化など当時としては革命的なことを数多く

実現させてきた人である。この人なくして和製のミュージカルが広まることはなかったのかもしれない。劇団四季に魅せられた一人として心からの追悼の意を捧げたいと思う。

また、去年は劇団四季にとって創立 65 年という年でもあった。節目の年に全国で催される記念公演が山口県は下松市で行われたので観に行くこととなった。さまざまな演目の名シーンがメドレー形式で披露され、キャストも第一線で活躍されている方で構成されていた。なかでも感動したのは札幌で観たエルファバ役の女優に再会できたことだった。しかもキャラクターの異なるさまざまな役柄を見事に演じ分けるのである。感動というものは時間が経つと思い出として勝手に独り歩

きをしてしまい、いつの間にか余計に大きくしてしまっているときもあるが、改めてその姿を拝見し、さらに感動は大きくなってしまった。

こうしてミュージカルにはたくさんの感動をもらうことができた。今や娯楽もテレビからネットの時代に変遷してきているが、やはり生で感じる以上のことはないと思う。まだまだ観たことのない演目もたくさんあり、今後もいろいろと観に行けたらと思うのと同時に、皆さんにもぜひ一度劇場に足を運ぶことをお勧めしたいと思う。

## 新コーナー

### 「山口県の先端医療についての紹介」原稿募集

#### 投稿規程

字数：1 頁 1,500 字、6,000 字 以内

- 1) タイトルをお付けください。
- 2) 他誌に未発表のものに限ります。
- 3) 同一会員の掲載は、原則、年 3 回以内とさせていただきます。
- 4) 編集方針によって誤字、脱字の訂正や句読点の挿入等を行う場合があります。また、送り仮名、数字等に手を加えさせていただくことがありますので、ある意図をもって書かれている場合は、その旨を添え書きください。
- 5) ペンネームでの投稿は不可とさせていただきます。
- 6) 送付方法は電子メール又は CD-R、USB メモリ等による郵送（プリントアウトした原稿も添えてください）をお願いします。
- 7) 原稿の採用につきましては、提出された月の翌月に開催する広報委員会で検討させていただきますが、内容によっては、掲載できない場合があります。

#### 【原稿提出先】

山口県医師会事務局 広報・情報課

〒753-0814 山口市吉敷下東 3-1-1 山口県総合保健会館 5 階

TEL：083-922-2510 FAX：083-922-2527

E-mail：kaihou@yamaguchi.med.or.jp